



安城市議会議員 石川つばさ通信 NO27

市政レポート

住吉マンション協定未締結問題

「市は当事者」と明言



住吉町 3 丁目で行われている住宅開発事業で、市長が工事に同意する条件の一つであった「工事協定書を締結」が履行されないまま工事が進められている問題について、9 月議会で市の認識を質しました。

市は、協定の内容に関しては住民と業者の問題としながらも、「条件付きで市長同意をした以上、市は当事者と言う認識で対応すべき。関与のない第三者ではない。協定締結に結びつくよう対応する。」と明言しました。

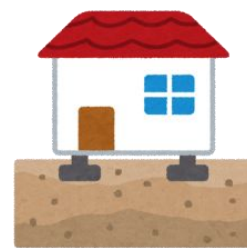
本来、工事協定書は工事が始まる前に結ばれるべきものです。既に工事が行われている中で、これから協定書の締結を模索するということが自体異例です。

今後、協定締結に向けた動きがどこまで進んでいるのか把握に

努め、市の対応について都度チェックしてまいります。

杭、45mへ短縮！？

地盤や耐震・免振について業者側は、「固い地盤の層まで 55.7m あり、その層まで杭を打つ」という旨の説明をしてきました。



ところが、同マンションの公式 HP を見ると、杭の長さは固い地盤の層まで届かない 45m に短縮されています。どういう経緯で変更になったのか分かりませんが、説明もないまま大幅変更がなされることは言うまでもありません。

水道料、当面値上げの必要なし

市は今年7月、無作為抽出した2000世帯を対象に「水道事業に係る市民アンケート」を実施し、1001世帯・50.1%の回答を得ました。

この内、四択で回答する「水道水の水質をより良くする取り組み」「老朽化した施設(※)の更新」「地震等の災害に強い施設(※)づくり」の各設問ではいずれも「取り組むべきと考えるが、水道料金への影響をできるだけ抑えるよう、時期は多少遅れても構わない」との回答が最も多く、水道利用者の意思が如実に現れました。

これを踏まえて市は、アンケート結果だけでは判断できないとしつつも、「現行の水道料金収入及び経常収支が維持され、計画した施設整備等に対する財源が確保できれば、当面は水道料金を引き上げる必要はない」との認識を示しました。

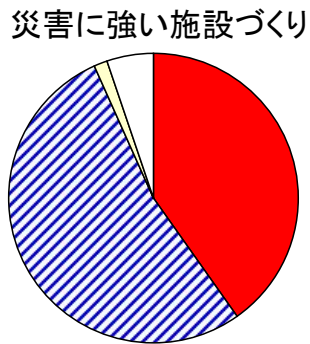
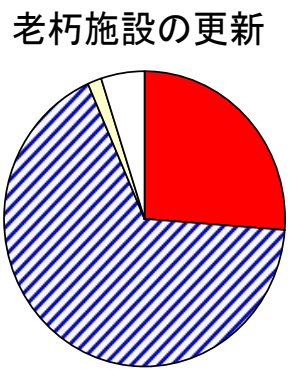
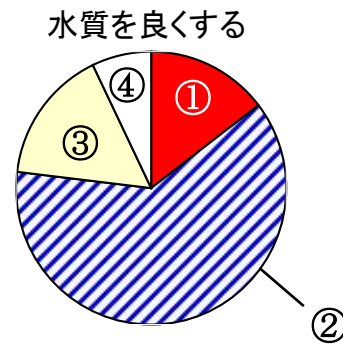
利用者の意思がこれ程はっきり示された以上、もし料金引き上げを行うのなら、アンケート結果を覆して余りあるだけの相当の大義名分が必要になります。

※水道管や浄水場等

【グラフの見かた】

- ①「水道料金が多少上がっても、できるだけ早くより良くすべきである」
- ②「取り組むべきと考えるが、水道料金への影響をできるだけ抑えるよう、時期は多少遅れてもかまわない」
- ③「対策の必要はない」
- ④「わからない」

詳細な数字については http://blog.livedoor.jp/i_tsubasa_anjo/ をご覧ください。



市職員 過労死ライン超え 59人

9月議会の決算審議を通じ、昨年度、安城市職員の59人が過労死ラインを超えて働いていたことが分かりました。

過労死ラインは時間外労働が、1か月間におおむね100時間、又は2か月間ないし6か月間にわたり1か月当たりおおむね80時間とされています。あつてはならないことですが、これを超えると、職場以外の場所で倒れても業務との関連性が強いと判断されます。

過労死防止法により、地方公共団体である安城市には、世の中から過労死等(※)が無くなるよう対策を講ずる責務が課せられていますが、庁舎内がこの状況では何を言っても説得力に欠けます。

健やかで幸せな「^{けんこう}健幸都市」を目指すのであれば、人命に係わる過労死問題は避けて通ることのできない大きな問題です。放置することは許されません。

※「等」には死亡だけでなく、脳血管疾患、心臓疾患、精神障害といった心身の健康を阻害することも含まれる。

作野保育園 運動会

9月30日、穏やかな天気の下で行なわれた作野保育園「みんなでわっしょい ぱわふるうんどうかい」にお邪魔しました。

が手を繋いでクルクル回る技、極めつけは10回以上の連続逆上がりなど、文字通りパワフルな姿を見ることができました。

低年齢の中には、保護者席のお母さんを見つけた途端に思わず駆け寄ってしまう可愛らしい子もいましたが、競技では練習の成果を存分に発揮してくれました。

竹馬での行進や、バランス感覚の難しい一輪車に乗った子同士



ふつうに働いて

PART17

ふつう生活する

執筆日(10月1日)時点で、国政は混乱を極めています。野党第一党・民進党が希望の党へ合流と報じられたかと思えば、受け入れる希望側は「リベラル排除」を宣言しています。もし宣言通り排除が行われれば、小選挙区という選挙制度も相まって保保2大政党に向かう恐れもあります。

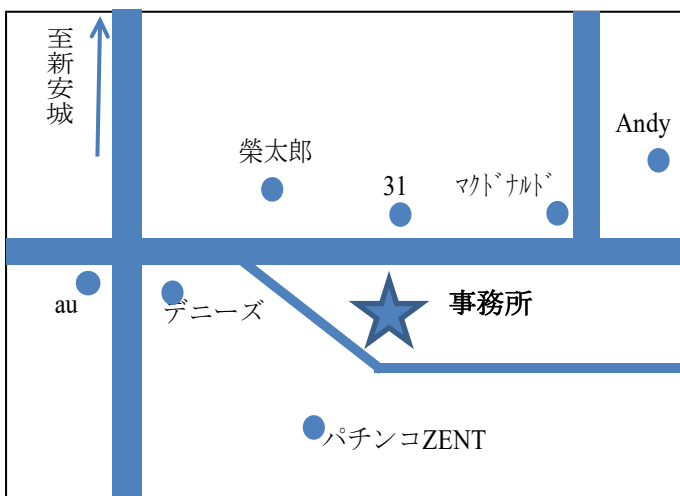
排除される側の中にはリベラル新党の模索もあるようです。彼らが従来の主張を守り、野党共闘の枠組みに立ち戻るのであれば歓迎すべきことです。共闘が強化されれば、2大政党を2.5大政党にする程度のインパクトは持ち得るのではないのでしょうか。

保保2大政党・大連立を防げ

一方、危惧されるのが大連立¹です。小池知事にとって時期はともかく、新党ブームで保守票を取り込んで勝利し、弱った自民党と連立を組むことが総理大臣への一番の近道であると計算していることはまず間違いないでしょう。

大連立を防ぐためにも、野党共闘グループが一定の力を持つことが必要です。そうすることで、希望の党移籍組の中の良識保守層に賢明な判断を促す圧力にもなります。

情勢は刻々と変化しますが、国の行く末を決めるのは国会議員ではなく、**主権者＝国民＝あなた自身**です。



石川つばさ事務所

安城市住吉町荒曾根 1-245 アラズビル2F 南
電話 0566-98-6932
FAX 0566-98-6931
メール ishikawa2011@aria.ocn.ne.jp

当事務所では職場・家庭の問題や法律の相談も行なっております。お気軽にご相談ください。